

保護者・生徒用

愛ことば

～安倉中愛 友よ～

宝塚市立安倉中学校
校長だより

2025(令和7)年

10月27日(月)

第15号

今年の力ボチャは36.2 kg!

感動の安倉祭ありがとうございました～『華樂歩流(カワリ)』の安倉祭～

10月24日(金)。安倉中学校全体が「文化の秋」「芸術の秋」「音楽の秋」を満喫した一日でした。あれから3日経ちましたが、あの日の熱い興奮こうふんとほんのりとあったかい感動は今でもじんわりと胸の奥に残っています。

まず、今回の安倉祭には、多くの保護者の皆様にお越しいただき、生徒たちの活動の様子をご覧いただきましたことを心より感謝申し上げます。今年も安倉中生たちは学級や学年、委員会活動、部活動などにおいて、それぞれの仲間と協力し、素晴らしい力を展示やステージで発揮することができました。

「展示」は、一つひとつの作品に地道な取組の成果を感じるもので、アイデアに悩み、制作に悩み、締切に悩むなどの過程かていが多くの作品から感じられ、青春(アオハル)の魂たましいにあふれるものでした。また、学級・学年単位でおこなった他の人たちの作品をしっかりと味わう鑑賞かんしょうの姿勢も立派でした。

「合唱発表会」では、どのクラスもどの学年も担任や学年の先生とともに創り上げてきた成果をしっかりと披露ひろうしていました。1年生は、安倉中での初めての学級・学年まとまったの発表でした。取組始めは、なかなか声も出にくかったようですが、本番に合わせてしっかりと頑張ろうとする姿勢が伝わってきました。2年生は、中堅学年ちゅうけんとして安定した声質と気持ちで臨み、表現力の豊かさを意識した取組に、来年の最高学年での発表が楽しみとなる歌声でした。そして、3年生。気合が違いました。声質も大人の雰囲気ふんいきで「さすがっ!!」と思わせるものでした。出来映えはどのクラスも満点で素晴らしかった。声量の迫力はくりよくには、自分たちの取り組んできたものを全て出し切ろうとする一生懸命いっしょうけんめいな気持ちが伝わってきました。さらに、歌声だけでなく、表情、所作しよさから何としても最優秀賞を取ってベガホールに行きたいという気持ちが痛いほど伝わってきて、聞いている私たちに大きな感動を与えてくれました。本番の合唱そのものの素晴らしさですが、それまでの取組の過程の立派さにも最高学年としての模範もはんを見せてくれたことにも大きな拍手を送りたいです。

安倉中の3学年がそれぞれ一丸いちがんとなっているという実感が伝わってきて、聞いている全ての人たちに感動を与えられたはずです。今回の合唱発表会の一つ一つの合唱きを聴き

ながらこんな経験の中から人の心は豊かになっていき、皆さんも成長していくものなんだろうなとしみじみ感じたのでした。おまけに先生たちの合唱「もしもピアノが弾けたなら」も皆さんの青春仲間に入れてもらい(?)盛り上げてくれましたね。

また、「ステージ発表」は、生徒会執行部・健康委員会発表・南中ソーラン・吹奏楽部と、どれもこの日に向けて懸命に取り組む努力の跡が感じられる見事なものでした。ステージとフロアが一つとなって安倉中学校としての空気を創り上げていこうとする一体感が感じられる青春力そのものでした。どの場面でもまさしく「安倉中愛で安倉中がひとつに」を感じる一日でした。

そして、運命の閉会式。結果発表直前の沈黙の間で、隣の人と手をつなぎ合ったり、両手を合わせて祈ったりの緊張の後、入賞クラスの曲がピアノ伴奏で流れました。「やったー！」という大きな歓声と賞に入らなかったクラスの人たちのため息とが入り混じり合った瞬間。悲喜こもごもでした。最優秀賞の人たちの満面の笑顔や感性と共に泣きじゃくる顔はとても素敵でした。それと同時に賞に入らなかった人たちの、残念で仕方がないけれど、しっかりと受け入れないといけないという何とも言えない表情や悔しさに涙する姿にも熱いものがこみ上げてきました。全クラスに最優秀賞をあげたい気持ちです。表彰式では、賞状を読み上げる時に私自身も胸に熱いものがこみ上げてくるのを抑えるのが大変でした。特に印象に残ったのが3年生の姿でした。最優秀賞で賞状をお渡しした時、安堵感に包まれた涙にくれる人たちがいました。また、それを逃しながらも優秀賞となり、悔しさの中もしっかりと頑張った自分たちを讃えようと口を真一文字にしっかりとつぐみ、直立する代表の男子生徒の姿は本当に素晴らしいものでした。カッコよかったです。

今回の安倉祭では、どのクラスも結果だけに囚われない取組を進め、何事にも代えがたい勲章と自分たちの大切な思い出を創り上げたことは容易に想像ができます。「結果よりプロセス」を体現していました。あっぱれでした。安倉中生が色々な場面でよく頑張った取組期間であり、心に残る青春の日を創り上げました。みんなに成功おめでとうと伝えたいです。これからも安倉中愛での毎日をしっかりと過ごし、感動のある日々となることを願っています。安倉中愛生の皆さん素敵な感動ありがとうございました。

